

## 第13回 種を蒔く人のたとえ (4:1~20)

### 《アウトライン》

1. 種を蒔く人のたとえ (4:1-9)
2. たとえで語る理由 (4:10-12)
3. 種を蒔く人のたとえの解説 (4:13-20)

### 《結論》 実を結ばせてくださる神様

---

### 《聖書研究メモ》

**マタイ 13:1** その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。

**たとえ**：重要な真理を伝えるため、日常生活など、人々によく知られた物事を使ったもの。

- ・ イエスが語られた「たとえ」は、大まかに2種類ある。
  - (1) 比喩を使った格言的なもの
  - (2) 物語のある「たとえ話」
- ・ 「たとえ」を解釈する際の注意事項
  - (1) 前後の文脈から、「たとえ」のメインポイントが何であるかを探る。
  - (2) メインポイント以外の部分で、細かいところにこだわり過ぎない。

#### 4:3-8 当時の種蒔きについて

- ・ 手に種をいっぱい握み、ばらまく。
- ・ ある説によれば、紀元1世紀のイスラエルの平均的な収穫は、7.5~10倍。
- ・ 紀元前1世紀の半ばに、ガリラヤ湖周辺で100倍の麦の収穫があったという報告もある。

#### 4:11 奥義（聖書協会共同訳では「秘義」；ギリシャ語で「ミステリオン」）

- ・ 新約聖書でいう「奥義」とは、これまで明らかにされておらず、初めて明かされた真理のこと。

#### 4:12 イザヤ書 6:9~10 の引用

(9)すると主は言われた。「行って、この民に告げよ。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな』と。(10)この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を固く閉ざせ。彼らが見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒されることもないように。」

#### 4:15 「道端に蒔かれたものとは、こういう人たちのことです。」

- ・ 直訳：みことばが蒔かれた道端にあるのは、こういう人たちのことです。

#### 「種を蒔く人のたとえ」のポイント

- ・ 神の国のメッセージは、全ての人に受け入れられるわけではない。言い換えれば、神の国のメッセージを受け入れる人は少数である。